

共同礼拝

2024年10月13日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 本多友子

前 奏

招 詞 ハバクク書 2章20節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書 詩 編 133編1節 (旧975)

使徒言行録 10章34～48節(新233)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 53

説 教 「神は分け隔てなさない」

牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 II195

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

10月の祈り

主の御心によってキリストの体としての教会がここに立てられ、御言葉に立ち、宣教の使命に生き、主の導きによって今に至るまで守られて来たことに感謝し、世の終わりまで、時が良くても悪くても、御言葉を宣べ伝え、希望をもって歩に歩むことができるように。

礼拝諸集会と各部会、部門会、教会学校、幼稚園の働きが力づけられるように。

平和を求める祈りが力づけられるように。

今日の祈り

教会と幼稚園の秋の予定が守られますように。

それぞれの日々の信仰の歩みが整えられ、主を見上げ、落ち着いたものとされますように。

主の求められる平和への歩みを祈り求め続けることができるように。

弱っている兄弟姉妹にみ手が与えられ支えられるように。

「神は分け隔てなさない」 姜 徑米

使徒言行録 10章34～48節

教会が新しく歩み出す、伝道の新たな展開が起る、それは、教会に連なる者たちが、伝道をする者たちが、新しくされる、造り変えられることを通して起ります。伝道は、人を神様に従う者へと造り変えようとするのではなくて、まず自分が、神様のみ言葉に従う者へと造り変えられるということを通してなされていくのです。

34節には、ペトロが、自分が神様の示しによって新しくされ、造り変えられた、そのことを驚いて

いる言葉があります。「よく分かりました」、これは口語訳聖書では、「ほんとうによくわかってきました」となっていました。

ペトロが本当によく分かったことは何だったのでしょうか。それは、「神は人を分け隔てなさない」ということです。ペトロは、神様は人を分け隔てなさない、外見で人を判断したりはなさないということは知っていました。しかしユダヤ人と異邦人という区別は別だと思っていたのです。

それはユダヤ人たちが抱いていた常識でした。この区別は神様がしておられることで、救いは神様の民であるユダヤ人だけに与えられていると考えました。差別はそのようにして起こります。私たちは、人を分け隔て、差別する時に、自分が分け隔てをしたり差別をしているとは思わないのです。

ペトロがここで、異邦人との間の、ユダヤ人の常識だった分け隔てを乗り越えることができたのは、33節までに語られたように、神様のみ言葉と、それに伴って起った出来事によって新たにされたのです。神様が今行なっておられ、押し進めようとしておられるみ業を本当によく理解し、それに従う者となったのです。

彼が理解したことの内容が35節に語られています。異邦人であっても、神様を畏れて正しいことを行う、神様を信じて従うならば、神様がご自分の民として受け入れ、救いにあずからせて下さろうとしている。主イエス・キリストによる神様の救いのみ業の前で、ユダヤ人と異邦人という分け隔ては取り去られている。その神様のみ心を彼は受け入れ、それに従ったのです。そして、主イエス・キリストの福音はさらに広く、異邦人にまで宣べ伝えられ、教会は前進していったのです。